

創新会会派視察報告

平成25年4月15日

創新会

牛尾



創新会メンバー； 高見庄平・山田義喜・山崎晃・

視察日； 4月6日(土)・7日(日)・8日(月)

視察地； 三重県松阪市

目的； 浜田市議会の議員としてより「宣長まつり」に参加し、駅鈴で結ぶ松阪市と浜田市両市の交流を官・民・議会により一層の促進を図る。

日程；

4月6日(土)

市役所——広島駅着・発——名古屋着・発——松阪着
8；00 9；20・10；13 12；31 フレックスホテル 宿泊
3；15

4月7日(日)

午前9；00「宣長まつり」出席(松坂城跡)

午後2；00松阪市産業振興センター

午後4；00石見神楽終了後名古屋へ 名鉄グランドホテル 宿泊。

4月8日(月)

名古屋——京都経由(新幹線)広島駅——(浜田道)——浜田着

* 状況；

夕方、フレックスホテルの大ホールで山中松阪市長・小林副市長・また松阪市ガイドボランティア三好会長・中西会員・松阪市観光協会佐藤会長・本居宣長吉田館長・ほか松阪市職員、ボランティア19名。浜田市から栗栖観光振興課長など執行部ほか5名、市議会議員4名、浜田市観光ボランティアガイドの会員8名など総勢約40名の「駅鈴でつなぐ浜田市・松阪市歓迎交流会」出席

山中市長とは昨年10月にお会いして今回で2回目でした。今年の1月松阪市長選挙で見事に2期目の当選され「おめでとうございます」とお祝いの握手をしました。そのとき山中市長は「浜田市に行くつもりだがいつがいいだろうか？」と。私もとっさに「お待ちしております」と返答しましたが山中市長の浜田市への熱意に驚かされました。交流会の後でわかったことですが山中市長はすでに「駅鈴でつなぐ浜田市・松阪市交流都市」の綱領を作るように執行部に指示していると聞きました。人口17万人の松阪市の方から積極的にアプローチしていただければ浜田市としても大変喜ばしいところです。

こうして松阪市主催の「駅鈴でつなぐ浜田市・松阪市歓迎交流会」は大いに盛り上がりお互

いの絆が徐々に繋がっていきつつあることを確認できました。

4月7日（日）午前9時

松阪城跡（松阪公園）「宣長まつり」開会式に出席

参加者；浜田市栗栖観光振興課長、観光企画課長、上岡佐野社中代表、浜田市観光ボランティアガイドの会、高見、山崎、山田各議員。

状況；

10日は前日の強風と雨の天候のため松阪公園での開会式は無理だろうと思われたがすばらしい天気恵まれて、予定どりの「宣長まつり」の開催となりました。会場には山中松阪市長をはじめ中井松阪商工会議所会頭、昨年末浜田を視察訪問された松坂市議会議員の田中、小林、堀端議員も出席され名刺交換、松阪市の経済状況など情報交換。また式典では浜田市観光ボランティアのメンバーが紹介され、市民レベルでの松阪・浜田の交流が本格的にスタートしたんだと感じました。

その後、堀端議員に江戸時代の商家や松阪市内を視察させてもらい、昼食後、浜田市の特産品販売、午後2時からの佐野社中による石見神楽上演される松阪市産業振興センターに移動。

松阪市民も今回の石見神楽上演について大変期待され山中松阪市長さんも楽しみにされていました。本来なら広い市民ホールが場所としてはよかったですのですがすでに他のイベントで使用できないため少し狭い松阪市産業振興センターとなったそうです。1階ロビーで浜田市の特産品の販売をお手伝いし、初めて見る島根の浜田市という魚や饅頭や石見神楽のおみやげを多くの松阪市民にお買い上げいただきました。午後2時から神楽は3階の会場で上演され1階では大画面のモニターテレビが用意され3階、1階約300名以上の市民に物珍しさと「すばらしい」の感動の言葉をいただきました。特に刺繍を施した衣装を見たいという方のために神楽上演後3階から衣装を着たまま1階のテレビで見ている市民に1着2～300万円する石見伝統の刺繍で彩った神楽衣装を堪能していただきました。

松阪ではじめての石見神楽上演は翌日の夕刊三重や中日新聞に「「迫力の舞台大盛況」・石見神楽上演「見込み違い会場、倍の人」、産業センター1階立ち見も、「150人がっかり、モニター鑑賞」など報道されました。

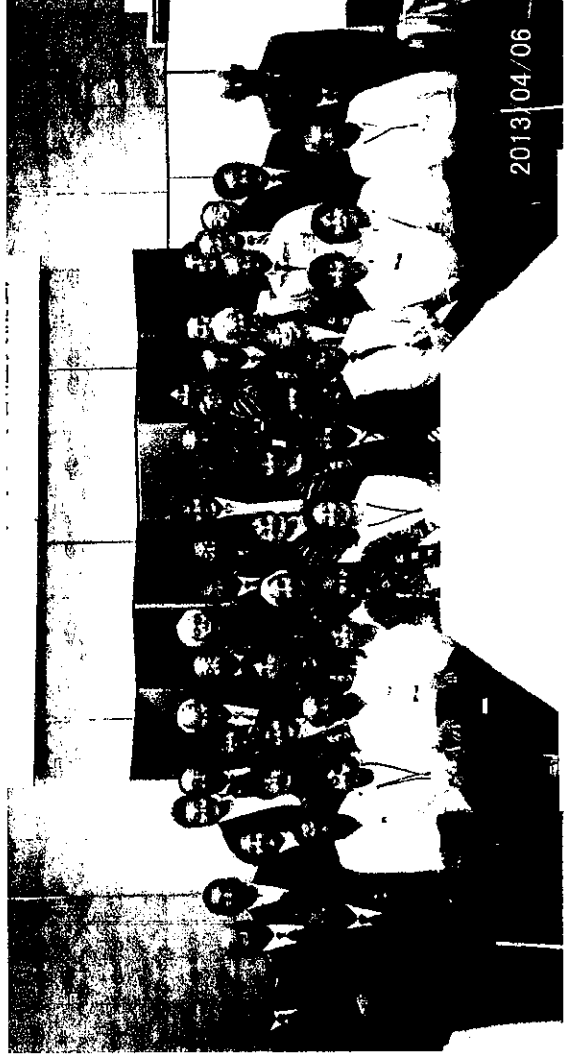
一昨年、浜田市観光ボランティアガイドの会が浜田藩のルーツを探る中で松阪市とのつながりを発見。昨年6月本居宣長記念館の吉田館長、松阪ガイドボランティアの友の会中西さんを招き、いわみーるで「本居宣長と浜田」のタイトルで講演会を開催。300人以上の多くの浜田市民が関心を示された。そして昨年の10月宇津市長や斉藤ガイドの会会長と松阪市を訪問し、「両市の交流の促進を確認」、今回の「宣長まつり」には石見神楽を松阪市で上演することが約束された。また昨年の産業建設委員会は日本の有名な産物を有する都市が集まってその拡大とより一層の活性化を図る「ブランドサミット都市連携」が開催された松阪市を視察し、これがきっかけとなり、山中市長さんの「松阪市が浜田市さんをオブザーバーとして推薦するの

で出席したらどうか」とのお誘いをうけ、昨年11月和歌山県有田市で開催された「ブランドサミット」に初めて参加させてもらったことも両市の交流の成果の1つでしょう。

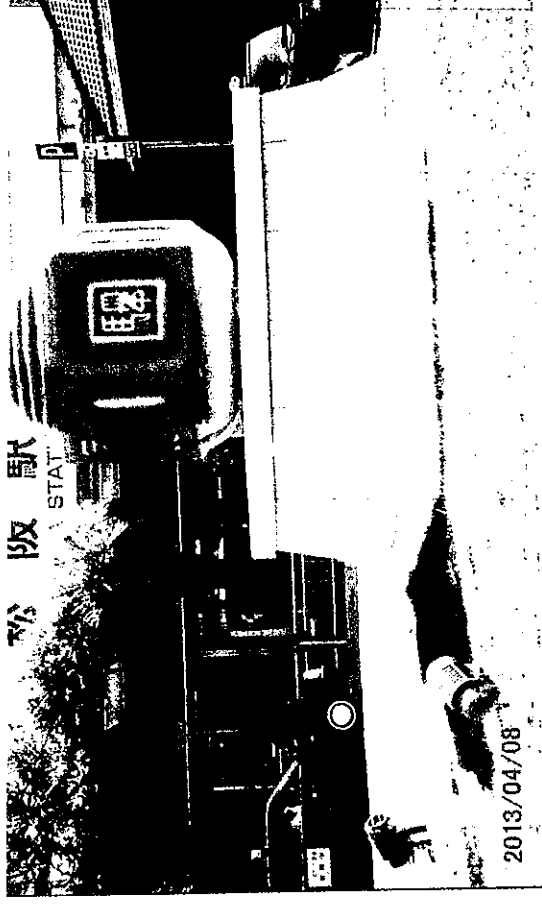
そして今回、松阪市・浜田市のボランティアの会を中心とした民間団体と山中・宇津両市市長をトップとした自治体の連携によって市民の交流が始まり、まさか松坂「宣長まつり」に松阪市民の皆さんに浜田市の神楽が披露できるなんかとても考えられないことが実行されました。「石見神楽ってはじめてみたがすごいね」「浜田市に行ってみたい」松阪市民の生の声です。

まさに浜田にとって「古くて新しい発見」が両市の産業・経済・文化そして人のきずなが繋がっていることを実感しました。

私たち創新会4名が松阪市「宣長まつり」に参加し、松阪市・松坂市議会・松坂市民とのますます身近な友好都市「兄弟市」関係（吉田本居宣長館館長は松阪と浜田は兄弟の関係でもあるといわれました。）になるようにこれからも全面的に協力していきます。



山中松坂市長も出席された歓迎交流会



浜田の殿様が贈った駅鈴のモニュメント(JR 松坂駅前)



松坂ガイドボランティア友の会 三好三重子会長さんと記念撮影

石見神楽上演

見込み違い会場倍の人

座席センター 1階も満員も

150人がっかり、モニター鑑賞

松江市が開催する「石見神楽」の公演が、毎年3月の1日午後2時から本町の市立文化センターで開かれ、150人収容のホールに入場者があふれ、150人収容のホールに入場者があふれた。あふれた150人は、モニター鑑賞で鑑賞した。昨年は、座席センター1階も満員も。

石見神楽の公演が、毎年3月の1日午後2時から本町の市立文化センターで開かれ、150人収容のホールに入場者があふれ、150人収容のホールに入場者があふれた。あふれた150人は、モニター鑑賞で鑑賞した。昨年は、座席センター1階も満員も。

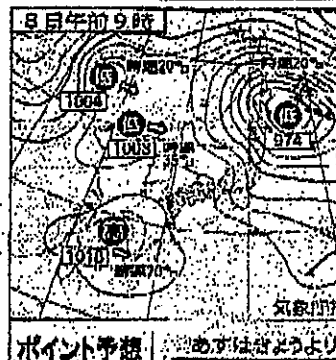
石見神楽の公演が、毎年3月の1日午後2時から本町の市立文化センターで開かれ、150人収容のホールに入場者があふれ、150人収容のホールに入場者があふれた。あふれた150人は、モニター鑑賞で鑑賞した。昨年は、座席センター1階も満員も。



石見神楽の公演が、毎年3月の1日午後2時から本町の市立文化センターで開かれ、150人収容のホールに入場者があふれ、150人収容のホールに入場者があふれた。あふれた150人は、モニター鑑賞で鑑賞した。昨年は、座席センター1階も満員も。

大蛇と恵比須を熱演

石見神楽の公演が、毎年3月の1日午後2時から本町の市立文化センターで開かれ、150人収容のホールに入場者があふれ、150人収容のホールに入場者があふれた。あふれた150人は、モニター鑑賞で鑑賞した。昨年は、座席センター1階も満員も。



松江市松町一丁目 誠心



松阪で宣長まつり

迫力の舞台大盛況

島根の「石見神楽」上演

松阪出身の国學者・本居宣長(一七三〇—一八〇一)をたたえ、宣長まつりが、松阪市内でも、島根の島根県浜田市の郷土芸能「石見神楽」が披露された。開催は一九九九年、浜田藩

迫力いっぱい演じられた「有明」の舞台—松阪市本町の市産業振興センターで

に移り、初代藩主で、さうに十二代藩主の松平康定は宣長の源氏物語研究を世に送り出すことに貢献し、宣長に駅鈴を贈った。JR松阪駅前駅舎のモニュメントは、その駅鈴を模しているといわれる。こうした縁から交流が始まり、その一環として今回、石見神楽社中による上演が実現した。会場の市産業振興センターには、石見の二ター録音の茶湯書が出るほしの猪足が、化け猫騒動の物語の「有明」や、須佐之男命が大蛇退治をする「大蛇」など、題目が披露された。簡易大鼓の調べに乗って迫力あふれる舞台が演じられ、茶湯書も披露された。